焼津市花沢地区における地域コミュニティの関係性の調査と持続可能なまちづくり

静岡文化芸術大学 文化政策学部宮崎ゼミ（研究室）
指導教員：准教授　宮崎 千穂
参加学生：河守詠人、安藤江梨花、横山菜々実

１　要約

本研究では、静岡県焼津市花沢地区における重要伝統的建造物群保存地区(以下、花沢重伝建)の歴史的景観を持続可能とするような新しい活用のあり方を模索するため、花沢重伝建とハイキングコースとの組み合わせによる新たな観光の形態の可能性を現地調査により検討した。調査は、聞き取り調査を焼津市職員計 3 名に対して、ハイキングコースのフィールド調査を花沢を含む静岡県内 3 か所において実施した。その結果、焼津市の行政機関内におけるハイキングコースについての多様な見解、花沢以外のハイキングコースとの比較から花沢のコースの長所と短所が明らかとなった。これらの調査結果からは、花沢重伝建とハイキングコースとを組み合わせた観光には、重伝建地区における交流人口を増加させうること、また、さらにはそれが焼津市全体への経済的波及効果へと繋がる可能性あることが認められた。

「花沢重伝建の景観」
（令和5年12月23日著者撮影）

２　研究の目的

本研究の目的は、静岡県内唯一の重伝建地区である焼津市花沢地区の歴史的景観を持続可能とするような新しい活用のあり方を提案することである。

本ゼミでは、昨年度、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」事業により主に花沢地区の住民への聞き取り調査を実施し、住民の意見や地域外の人々の関係性について明らかにした。その過程において、花沢地区が静かな山里の居住地域であることから、同地区には積極的な観光地化ではなく、交流人口や関係人口の緩やかな増加による地域活性化が望まれるのではないかという結論に達した。本研究は、こうした昨年度の研究を発展させるものである。

研究課題名にある「地域コミュニティ」という言葉は、「課題解決のために協同する地域社会を構成する個人、行政などの多様な主体」という意味で用いている。本研究では、地域を訪れる観光客も地域コミュニティの一員であると考え、地域コミュニティ内の関係を構築するひとつの方法として、花沢重伝健地区の散策とその近傍にあるハイキングコースを利用したハイキングの組み合わせを通して生まれる人々の交流の可能性に注目している。

３　研究の内容

概略

本研究では、静岡県焼津市花沢地区における重要伝統的建造物群保存地区の新しい活用のあり方を探るため、重伝健地区とハイキングとの相乗効果の可能性に着目した。それは、平成31年4月の文化財保護法の改正を受けて保存のみならず活用も求められている重伝建地区と、新型コロナウィルス感染症の流行の下（コロナ禍）において需要が高まっているハイキングとの組み合わせにより新しい観光の形態を生み出すことが、花沢地区における交流人口の増加や焼津市全体への経済効果に繋がるのではないかとの考えによる。

研究方法は、文献調査、聞き取り調査とフィールド調査である。聞き取り調査においては、焼津市生きがい・交流部文化振興課歴史民俗資料館の鈴木源氏、焼津市経済部観光交流課観光交流担当主査の鈴木強志氏、同課観光施設設担当係長の萩原俊伸氏の計3名にご協力いただいた。フィールド調査は、静岡県内の3つのハイキングコース、すなわち、静岡県焼津市花沢地区の満観峰・日本坂峠コース、静岡市の日本平夢テラスを目的地とするコース、掛川市から島田市にかけて小夜の中山を通るコースにおいて実施した。以下に、これらの調査結果を記しつつ、本研究

の課題を検討する。

花沢重伝建地区についての事前調査の結果

静岡県焼津市にある「花沢の里」は、静岡県内で唯一の重伝建地区に選定された山村集落である。重伝建地区とは、伝建地区を形成する区域のうち、選定基準に該当した地区のみが市町村の発起を経て、文化庁より選定を受けた地区をいう。なお、伝建地区制度とは、昭和50年の文化財保護法の改正により、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの、及びこれと一体をなして歴史的価値を形成する環境を含めて保存するために創設された制度である 。伝健地区に指定された地区は、市及び文化庁から補助金の交付を受けることができる。文化庁は、市が伝健地区に補助した金額の50%を市に対して後から間接的に補助する。市においては、特定物件であれば80%(1,200万円上限)、非特定物件であれば60%(800万円上限)を補助するなど各物件により補助の割合が異なり、修繕費用が200万円以上でなければ補助の対象にならないなどの制限がある。

花沢重伝建地区及びハイキングコースについての聞き取り調査の結果

令和5年11月8日、焼津市生きがい・交流部文化振興課歴史民俗資料館の鈴木氏に対しZOOMで聞き取りを行った。鈴木氏は、花沢地区について、行政としては、消費により経済効果を生むような観光地となることではなく、住民のまちづくりに寄り添い、「本物」としての歴史的景観を保護・継承することを第一に考えているという。ハイキングコースについて、年間推定3万人程度が利用しており、ハイキング客を始めとする観光客に焼津に来てもらうための一つの交流人口増加に役立っているため、焼津市に経済的に寄与する重要な場所であるという。

令和5年11月28日、ハイキングコースを管理する焼津市観光交流課の鈴木氏、萩原氏対して、焼津市市役所にて聞き取りを行った。両氏によると、花沢のハイキングコースの課題は、コースの維持管理と収益化であるという。すなわち、ハイキングコースには、コースの縮小または大規模整備による延命、寄付や駐車場有料化による収益の回収が望ましいとされる。また、温泉などの周辺施設との掛け合わせにより、観光客を焼津市内全体に誘導して消費に繋げることも視野に入れられるという。

ハイキングコースでのフィールド調査の結果

令和5年10月1日、花沢地区のハイキングコースにおいて調査を実施した。このコースは、花沢重伝建を出発して満観峰をゴールとし、豊かな自然の中を人々との交流を楽しみながら歩くことができる。また、頂上では富士の絶景を、道中では花沢重伝建の景観を楽しむことができる。このコースを歩く際には、特別な知識や用具を必要とすることはなく、多くの人が比較的簡単に登ることができる。また、コースには複数のルートがあり、異なるルートで別の景色や景観を楽しむことができる。他方で、トイレがないなど不便な点もあり、コースを心配なく十分に楽しむためには課題もある。少なくとも、高草山及び満観峰の山頂にトイレを設置することで、ハイキング客の不安を解消できるのではないかと考えられる。

満観峰頂上からの風景
(令和5年10月1日著者撮影)

次に、花沢の長所と短所を相対化して分析するため、近辺に文化施設や観光施設があるハイキングコースにおいて、以下のように調査を実施した。

令和 5 年 10 月 23 日、静岡市の静岡県立美術館を出発地とし日本平山頂をゴールとするハイキングコースの調査を行った。このコースは、車道や開けた広い道を通ったり、階段状になっている山道を通ったりと景色に変化がみられ、案内板も数多く設置されているため、ハイキング初心者には比較的易しいコースといえる。一方で、車やバイク等でも山頂に登ることが可能であるため、ハイキングコースの利用客は、花沢のコースに比べてあまり見られなかった。加えて、コースには左右を高い土で覆われた道があり、景色は良いが道幅の狭い箇所がある。景色を楽しむハイキング客が遭遇しうるリスクを排除する策を練ることも必要であろう。

令和 5 年 11 月 19 日、JR 金谷駅（島田市）を出発して事任八幡宮（掛川市）をゴールとするコースでの調査を行った。このコースは、広々とした歩道、石畳の道、起伏の激しい道を通る。また、道中に諏訪原城跡や日坂の宿など歴史的建造物等があり、標高の高い所からは、茶畑が広がる静岡県らしさ溢れる風景を楽しみながらハイキングができるコースとなっている。急な登り坂が 2 か所ほどあるが、足場の悪い所はほとんど見られなかった。ハイキング客は、花沢のコースと比べて少なかったが、お互いに挨拶を交わす機会は多くあった。一方で、道中にはトイレが

少ないように思われた。島田市側、掛川市側ともに現在地と周辺地域を記した案内板の表記が分かりにくいという印象も受けた。

４　研究の成果

(1) 当初の計画

当初の計画は以下の通りであった。花沢地区の住民や訪問客、焼津市文化振興課の担当者等への聞き取り調査やアンケート調査を行い、多様な意見を収集、整理する。並行して文献調査や県内所在の他の文化財等の視察を行い、花沢重伝建の現状について分析・評価する。その上で、観光地化に依らない重伝建地区の持続可能な活用のあり方を提案する。

(2) 実際の内容とその理由

コロナ禍であることを考慮して花沢地区の住民及び訪問客に対する聞き取り調査、アンケート調査は控えた。その一方で、焼津市の伝建地区及びハイキングコースを管轄する行政機関の担当者に対し聞き取り調査を行うことができた。花沢重伝健とハイキングコースの関連性を歴史的に探るため、東海道に関する文献調査を行った。県内の複数のハイキングコースの調査し、それらと比較することで花沢のハイキングコースの長短を明らかにした。

(3)実績・成果と課題

調査結果から、花沢重伝建の持続可能な活用のあり方としてハイキングコースとの組み合わせによる観光の開発を地域への提言としてまとめた。一方で、聞き取り調査の対象がハイキングコースを管轄する行政機関の担当者に偏っており、今後の課題としては異なる立場からの意見を集めることも必要である。また、本研究では花沢重伝建とハイキングコースとの組み合わせに焦点をあてたため、花沢重伝建そのものについてのフィールド調査は十分に行っていない。花沢重伝建とハイキングコースとを組み合わせた観光の具体的展開のためには、花沢重伝建そのものの新たな魅力を発掘する必要もある。

(4)今後の改善点や対策

花沢ハイキングコースの調査結果から、コース内にある二つの山の山頂にトイレを設置するこが課題として浮上した。そして、課題の解決には、これらの場所を管轄する行政について調査する必要が生じた。焼津市観光交流課の担当者への聞き取り時には花沢ハイキングコースが複数の行政地域に属することが話題となった。コース内にある高草山の山頂は藤枝市に、満観峰山頂は静岡市に属している。そのため、今後は、ハイキングコースのインフラ整備に不可欠な行政の課題や役割について検討しながら、課題解決のための提案ができるような調査・研究を実施する必要がある。また、花沢重伝建そのものの新たな魅力の発掘、観光の観点からみた花沢地区の焼津市全体における位置を把握することが、花沢地区を含めた焼津市の観光振興に繋がるであろう。そのためには、焼津市の観光プランを作成している焼津市観光協会、やいづ観光案内人の会など観光に関連する他の団体への聞き取り調査、温泉など他の市内観光地の調査などが必要となるであろう。

５　地域への提言

静岡県唯一の重要伝統的建造物群保存地区である花沢地区の歴史的景観を持続可能なものとするためには、たゆまぬ努力が必要である。本研究では、こうした文化財の保護・保全のための課題解決のため、その効果的な活用のあり方として、花沢重伝健とその近傍のハイキングコースとの組み合わせ観光の創出を提言したい。この新しい観光により、同地区における交流人口の増加、さらには焼津市全体への経済的波及効果の可能性が認められるためである。

本研究では、地域の住民のみならず、地域への訪問客もまた、地域コミュニティの一員と考えている。そうした考えのもとでは、地域コミュニティ内の関係を構築するひとつの方法として、花沢重伝健地区の散策とその近傍にあるハイキングコースを利用したハイキングの組み合わせが人々の交流を活発化するひとつの手段として提案できるのではないかと思われる。

花沢ハイキングコースは、県内外からのハイキング客を見込める個性豊かな魅力あるハイキングコースとなりうる。本研究による調査結果からは、花沢ハイキングコースが、富士の絶景という自然そのものと同時に、自然と調和した人びとの営みの歴史を感じさせる花沢重伝建の景観を

も楽しむことができること、比較的簡単なコースであるが複数のルートがある点では初心者もリピーターもハイキング客として見込めることなどの長所を有することが判明した。

一方で、花沢重伝健とハイキングコースとの組み合わせ観光の創出には課題もある。第一に挙げられる課題は、ハイキングコースの整備であろう。花沢ハイキングコースには、現状においてトイレが少ない。特に、コースの中間にある山頂にトイレがないことは、ハイキング客を不安にさせうる。トイレの設置は、ハイキング客の身体的・心理的を負担の軽減に繋がり、ハイキング客の増加、花沢地区全体の交流人口の増加に繋がるのではないであろうか。

ハイキング客の増加及び花沢地区全体における交流人口の増加は、焼津市全体の観光振興にも繋がりうる。焼津市担当者への聞き取り調査によれば、花沢ハイキングコースからの市内への観光客の誘導は市の課題であるとされるが、ハイキングコースの整備によりハイキング客の身体的・心理的負担が軽減されれば、彼らが市内の他の観光地へと足を延ばす可能性もある。

訪問客を花沢地区から市内の他の観光地へと誘導するには、彼らが市内を訪れたいと思わせるような仕組みづくりが必要とされる。本研究では、そのひとつの方法として、花沢重伝健とハイキングコースとの組み合わせ観光にさらに温泉を追加することを提案したい。焼津市観光交流課においても、ハイキング客の温泉利用には可能性が見出せるとの意見がみられた。焼津市内には10ヶ所以上の温泉施設があり、焼津温泉は「温泉総選挙」で3年連続全国1位となるなど観光スポットとしての可能性を秘めている。こうしたことからは、「花沢重伝健×ハイキングコース×温泉」という新しい観光に可能性が見出せる。この新しい組み合わせ観光では、観光客は花沢重伝建とハイキングを楽しみ、程よく疲れた体を温泉で癒すことが可能となる。現状において、花沢地区への訪問客には県内からの客やリピーターが多い。「花沢重伝健×ハイキングコース×温泉」は、一度で多くのことを楽しみたいと考える遠方からの訪問客を増やす可能性もある。焼津市には、温泉以外にも漁業を活かした観光など可能性は多い。将来は、花沢地区と他の市内の観光資源と掛け合わせた複数の観光を検討できるような余地も残されている。

以上のように、花沢重伝健とハイキングコースを組み合わせた観光の創出には、花沢地区における交流人口の増加のみならず、さらにそれを市内の温泉などの他の観光資源との組み合わせ観光へと繋げるうることも期待される。花沢重伝建の歴史的景観を持続可能とするための努力は、さらに焼津市全体へと経済的波及効果を及ぼす可能性を大いに秘めているのである。

６　地域からの評価

花沢地区は現在、静岡県内で唯一の国の重要伝統的建造物群保存地区であり、その良好な歴史的景観は、住民、市民はもとより国民共有の財産として保護が図られている。地区内を南北に通る街道は、住民の生活道路である一方、山村集落の歴史的おもむきを感じつつ山へと向かうことのできる人気のハイキングコースでもあり、１年を通して多くのハイカーが行き来している。

花沢地区のまちづくりの方針は観光地化ではないが、地区内にはミカンやタケノコといった季節の旬のものを、軒先で無人販売するお宅が点在する。土産物屋が軒を連ねる光景とは相反するなかにも、住民のおもてなしの気持ちが随所に見受けられ、市内において交流人口増加に資する重要な拠点の一つに位置付けられる。ハイカーを中心とした来訪者は年間推計３万人を数え、近年では花沢地区の歴史的景観の見学を目的とした来訪者も増えている。

静岡文化芸術大学文化政策学部宮崎ゼミにより行われた今年度の調査結果が示すように、まちづくりを含む花沢地区での文化財保護事業と、市の観光誘客の施策を考える際に、ハイキングコース整備の費用対効果や市街への来訪者の誘導の必要性は、常に検討されるべき重要な視点といえる。経済的効果が見えにくいハイカーの動向を、花沢地区のまちづくりに絡めつつ、市全体の観光振興のなかで捉え直した本研究結果は、庁内の文化財や観光など、関連するそれぞれの主管部局で横断的に共有すべきものと考える。

【謝辞】本研究においては、焼津市生きがい・交流部文化振興課歴史民俗資料館学芸員の鈴木源様、焼津市経済部観光交流課観光交流担当主査の鈴木強志様、観光施設担当係長の萩原俊伸様をはじめとする職員の皆様には多大なるご協力を頂戴しました。ここに厚くお礼申し上げます。